

「六本木AXISの『女性の視点・感性をとおしたプロダクト再発見』展示会報告」：共立プロダクトデザインの学生作品外部展示会、その意味と成果の分析について

著者名(日)	大竹 美知子, 青木 英明, 小堺 春花, 東 えりか
雑誌名	共立女子大学家政学部紀要
巻	57
ページ	71-79
発行年	2011-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1087/00002213/



「六本木AXISの『女性の視点・感性をとおした プロダクト再発見』展示会報告」

～～共立プロダクトデザインの学生作品外部展示会、その意味と成果の分析について～～

“Products Rediscovery through the female viewpoint and sensitivity”
at JIDA Design Museum in Roppongi AXIS

～An analysis report of the meaning and result of student's Product Design Exhibition～

大竹美知子 青木英明 小堺春花 東えりか

Michiko Ootake, Hideaki Aoki, Haruka Kozakai & Erika Higashi,

平成19年に家政学部生活美術学科から建築・デザイン学科に改組され、今年で建築・デザイン学科デザインコースとして1年生から4年生まで揃う年となった。

この3年間の成果として演習科目から学生作品を選抜し、平成22年6月12日・13日に、テーマ『女性の視点・感性をとおしたプロダクト再発見』で、六本木AXISビル4階JIDAギャラリーにて展示を行った。

1. 学生作品外部展示会の意味

家政学部建築・デザイン学科デザインコースは、美術系大学と違い、実技試験のない入試での合格者もいる。そのため、美術教育をほとんど受けていない学生から高校のデザイン科などでかなり教育された学生まで、非常に差のある状態でデザイン教育を始めている。

造形基礎のデッサン・立体構成・平面構成が1年次に配当され、デザイン演習は2年次からとなる。このように始まる4年間でどのような教育成果を上げているのか、本学家政学部にあるプロダクトデザイン分野ならではの特色はどのようなものであるか社会に明示することを目的として、今回の学外展示は企画された。

展開催にあたって、学生のデザインによる案内状(図1)が作られ、建築・デザイン学科学生と家族、教員たちに配布し、関係者や関連各機関等に発送した。また学内にはポスターで展開催の告知に努めた。会場の設営は学生が行った。(写真1、2)

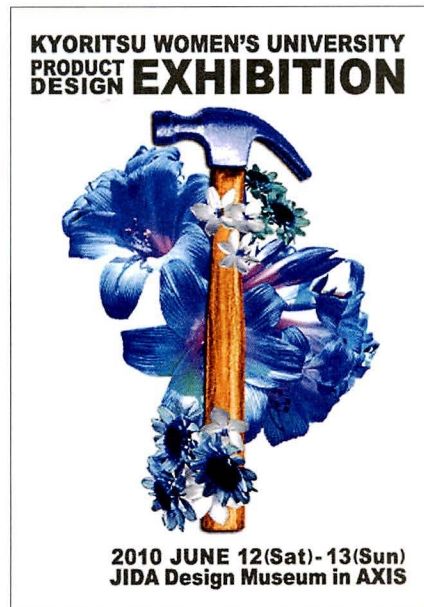


図1 ポスター DM

2. 展示内容

展示作品は、以下になる。(写真3~12)

1年 立体構成

「紙から起こした立体動物」 2点

2年 プロダクトデザイン基礎演習

「段ボールの椅子」 1点

「石鹼のデザインとパッケージ」 5点

「和紙の特徴をいかした照明器具」 7点

2年 木工演習 I

「積層合板曲げ加工によるハンガー」 5点

2年 木工演習 II

「一枚の合板を無駄なく作る家具 木犬」

1点

3年 プロダクトデザイン演習 I

「あったらいいな! をデザインする」

4点

3年 プロダクトデザイン演習 II

「時計」 5点

3年 プロダクトゼミナール

「ごみ箱」 3点

「トイレ」 4点

「ユニバーサルデザイン

～老人体験からの提案」 2点

3年 木工演習 III

「フォトフレーム」 2点

「木の照明器具」 3点

3年 木工演習 IV

「椅子 ピンク」 1点



写真1 学生による会場設営



写真2 会場風景

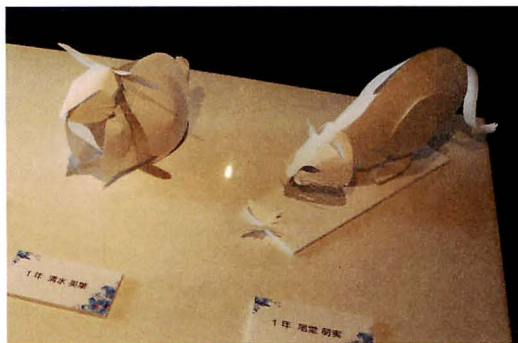


写真3 1年立体構成：紙の動物



写真4 2年PD基礎：和紙の照明器具

「六本木AXISの『女性の視点・感性をととしたプロダクト再発見』展示会報告」

3年 メタルクラフト演習

「真鍮板切り出し・打ち出しの

アクセサリ」 32点

4年 プロダクトデザイン演習Ⅱ

(旧カリキュラム)

「お弁当箱」 4点



写真5 左から2年PD基礎：段ボールの椅子
4年木工Ⅳ：椅子 2年木工Ⅱ：乗り物



写真6 2年PD基礎：石鹸 3年PDⅡ：時計
3年PDゼミ：バス・トイレ



写真7 3年PDⅠ：「あったらいいな！」
3年PDゼミ：ユニバーサルデザイン



写真8 3年PDゼミ：ゴミ箱



写真9 2年木工Ⅰ：ハンガー
3年木工Ⅱ：フォトフレーム

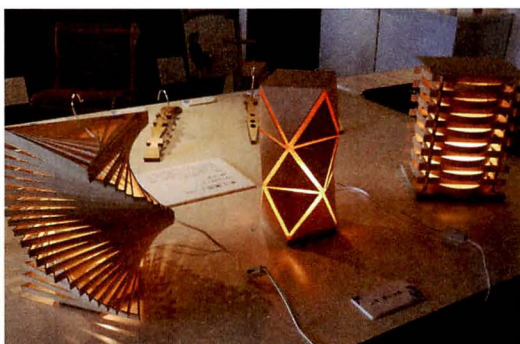


写真10 3年木工Ⅲ：照明器具



写真11 3年メタルクラフト



写真12 4年PDⅡ 旧カリ：お弁当箱

3. 展示来場者と反響

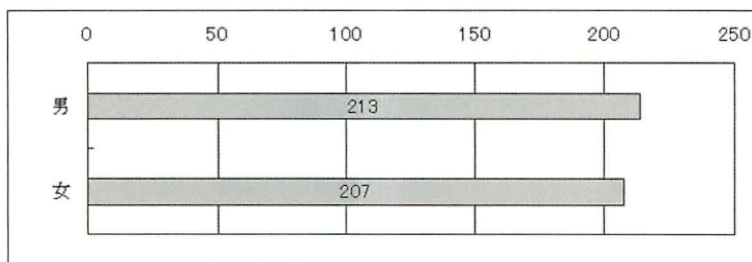
開催期間2日にも関わらず来場者が多く、その中のアンケート回答者は420名に達した。

アンケートより来場者を分析した。(グラフ

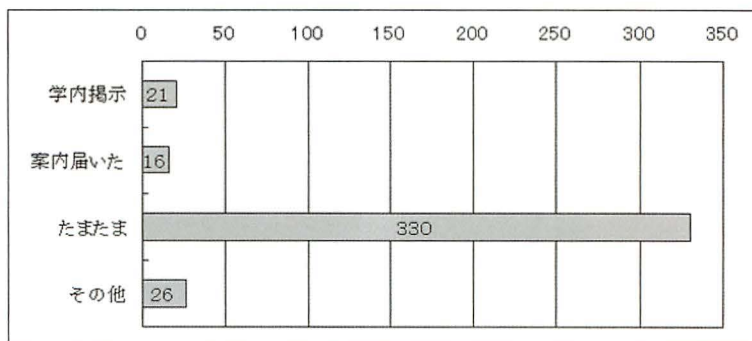
1、2、3)

来場者は男性・女性ほぼ同数で、来場のきっかけは「たまたま」が330名と圧倒的に多かった。

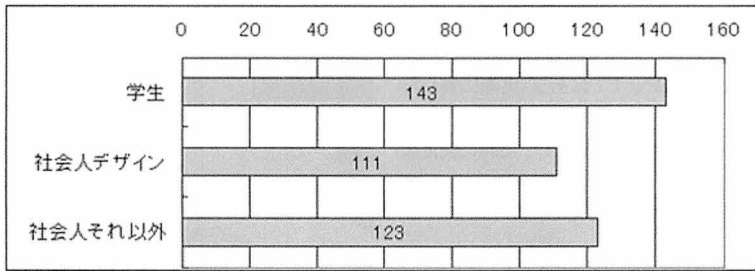
中でも社会人のデザイン関係者が111名と多く、展示作品に対して様々な意見が寄せられた。



グラフ1 男女別来場者数



グラフ2 来場のきっかけ



グラフ3 学生、社会人デザイン関係、社会人デザイン関係以外

4. 展示に関してのアンケートについて

展示開催については、「作品が豊富、全学年、多様な分野で見ごたえあり」「卒業制作展以外でこのような展示をやるのは面白い」との意見があった。

4-1 展示全般について

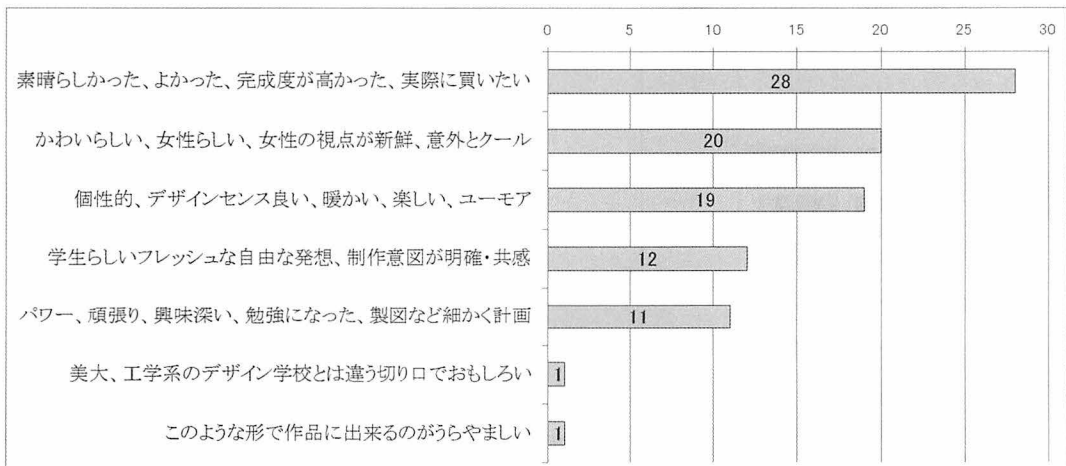
今回の展示テーマ『女性の視点・感性をととしたプロダクト再発見』に関連しては、「女性らしい作品」「女性の視点が良い」「かわいらしい」等の意見が寄せられ、「女性の視点・感性」というテーマは来場者の関心を引いた。

展示作品全般に対する意見を、プラス評価とマイナス評価にまとめた。(グラフ4、5)

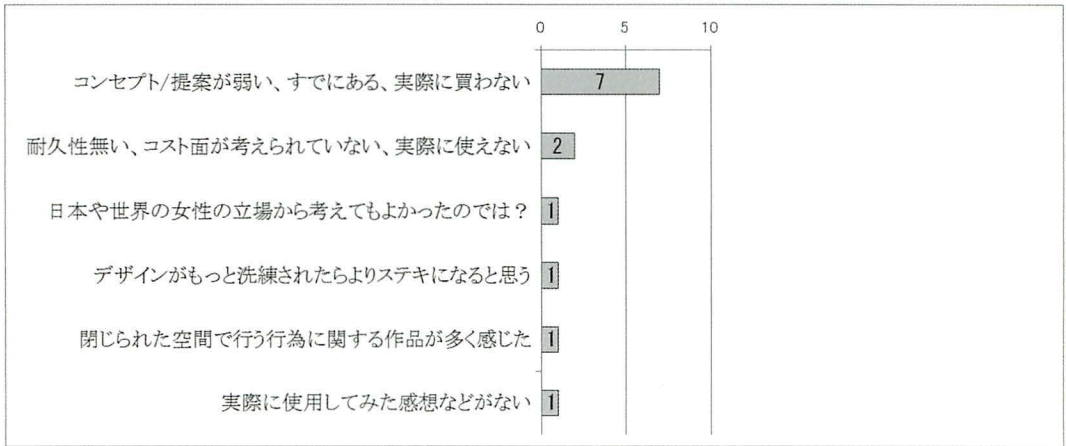
プラス面は、「学生らしさ」「ユーモア」「個性的」「暖かい」「自由な発想」「優しさ」「美大、工学系のデザイン学校とは違う切り口」「頑張り」があげられ、マイナス面は、「コンセプト/提案が弱い」「すでにある」「実際に買わない」「耐久性無い」「コスト面が考えられていない」「実際に使えない」が指摘された。

4-2 展示作品について

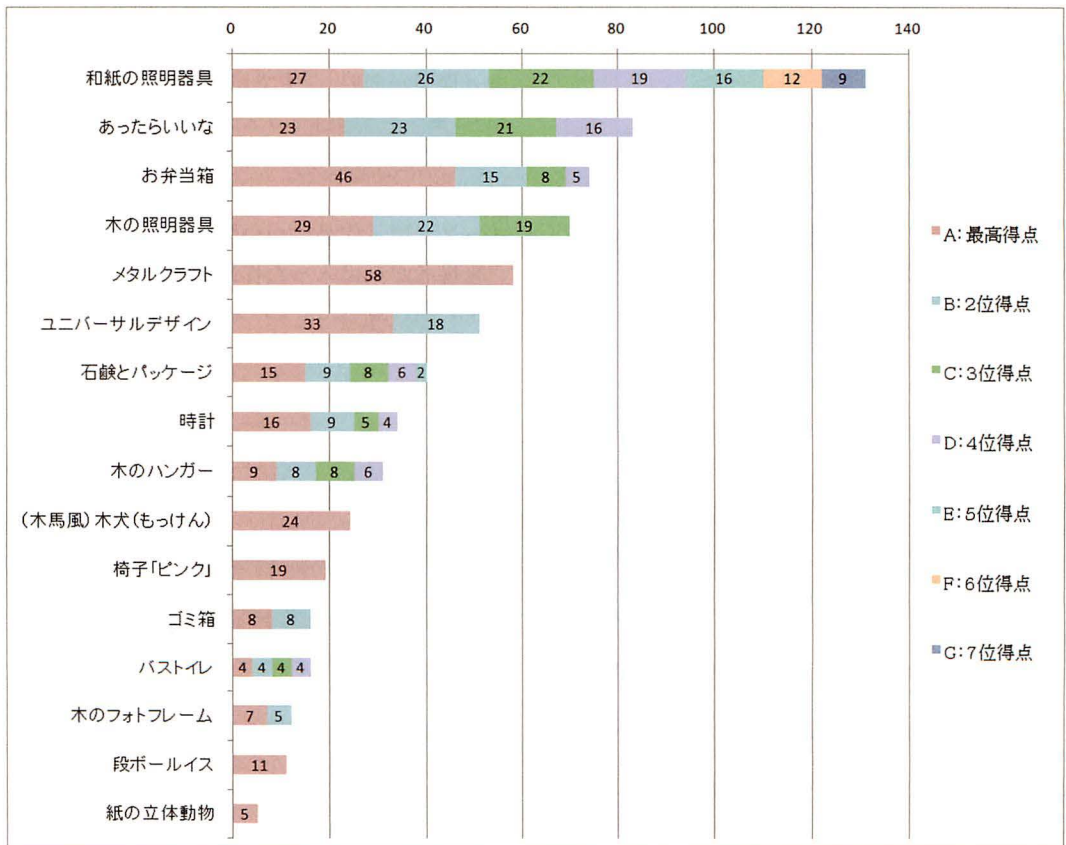
来場者が気に入った作品を授業科目別に得点の多い順に並べた。(グラフ6)



グラフ4 プラス評価



グラフ5 マイナス評価



グラフ6 科目別得点表

(注) メタルクラフトは32作品全体での評価

共立女子大学デザインコースには「もの作りの伝統」がある。木工演習では実際に使える椅子や家具などを、メタルクラフト演習ではブローチやスプーン等使用可能な食器を製作する。

実技系作品には実物の持つパワーがあり、人に強く訴える。「和紙をいかした照明器具」も実際に使える照明器具としての魅力が評価されている。

そのほかデザイン演習科目では、コンセプトやアイデア、造形など多面的に各作品に対して丁寧な、またデザイナー目線での具体的な意見等が寄せられた。

各作品に対する自由記入

◇「和紙の照明器具」「木の照明器具」

- ・LEDライトが普及する中、暖かみのある電球の良さを再確認
- ・きれい、毎日使いたい、かわいい、楽しい、エコ、アイデアがユニーク、面白い、大好き
- ・光を使った作品に興味があり見られて良かった
- ・奇抜さがほしい、機能性を見せてほしい

◇「お弁当箱」

- ・実用的で面白い、弁当箱提案は時代にあっている
- ・「P. M. BOX (昼夜2食用)」は帰りが遅

い私の為のお弁当箱のようで嬉しい

- ・「soup de gohan」は底がぬれるのでは？ 食器の収納部も洗いづらい 改善するとよい提案だ

◇「あったらいいな」

- ・「障害のある人用のレインブーツ」の視点は良いがヒールが危険
- ・「PHOTO DIARY」は右利きが多いので入力キーも右に出るほうがよいのでは？
- ・「Wa-mo (腕時計式パソコンマウス)」は使用方法が分かりにくい

◇「ユニバーサルデザイン」

- ・ユニバーサルデザインには高齢者の方々だけでなく、幼児にも使える配慮を感じた
- ・「ペットボトルオープナー」：素晴らしい、外用にもっとコンパクトに
- ・「通じゃんせ」：ボタンホールにフックを差し込むのは高齢者にはむずかしい、使用調査が必要

◇「石鹸とパッケージ」

- ・パッケージデザインに興味、石鹸の演習がおもしろそう

◇「時計」

- ・「ダブルウォッチ」は商品化可能な作品、アクセサリとしても良い

◇「バストイレ」

表1

説明パネルの文字が多い、小さい、色とかがバラバラ	7
モックの形状やパネルに必然性や意図が欲しい。	5
全体的にコンセプトボードがカラフルなのが気になる	1
パネル等フォーマット化した方がいいかも	1
パネルがダサい	1
作品は面白かったがせっかくのパネルとマッチしていない	1
パネルを見ないとわからない作品があり、ちょっと考えてしまった	1
プレゼンテーションが上手だともっと良くなると思う	1
ボードは要素を簡潔にまとめると、見てほしい部分だけ見えて来る	1

- ・丁寧なモデル作りで好感が持てる

◇「ごみ箱」

- ・臭いのつかないゴミ箱が欲しい

4-3 プレゼンテーションボードに関して

デザインとは「使う人がいる」という社会的な存在で、使う人の理解を必要とする。デザインを説明するプレゼンテーションボードは、デザインそのものと同じくらい大きな意味を持つ。

プレゼンテーションボードについての意見をまとめた。(表1)

主にプレゼンテーションパネルの完成度の低さが指摘された。

4-4 その他の自由記入意見

◇デザインの社会性に関して

- ・生活と環境とすべてにとってより良いものを!
- ・「世界を変えるデザイン展」の帰りに立ち寄ったが、ここにも「世界を変えるデザイン」があった
- ・子育て、介護、ヘルスケア、教育などに暖かい女性らしい視点、学生らしい視点を向けてほしい

◇創造性に関して

- ・創造することのすばらしさ、難しさを味わってください。
- ・まだ作りたい物をつくるという意識が先行しすぎている
- ・デザインが物の付加価値ではなく本質になるように!
- ・ソリューションになるデザインコンセプトをもっと見たい
- ・多くの作品が見かけに左右され、目的達成のための最後の手段の本質を追究していない

◇期待の言葉

- ・学生だからできるいろんなことに挑戦を!
- ・今後に期待
- ・マーケティングや機能などを考えれば、実

際のものとして提案可能

- ・自分もこのような作品を作れるように一生懸命勉強したい
- ・早く作りたい!

5. アンケートの分析

5-1 テーマ『女性の視点・感性』に関して
社会で期待する「女性の視点」は、ともすると「華やか」「装飾的」「かわいい」であるが、実際の女子大生が持つ「女性の視点」として学生の作品に表れていたのは、「使う人に対しての優しさ」や「暖かさ」、「ユーモア」、「個性」などであった。来場者の多くも、表面的な「女性」という言葉にとらわれずに様々な観点から学生作品を評価している。

5-2 作品評価について

プロダクトデザインでは、実物を制作する場合と実物ではなくて模型で表現する場合とある。

木工演習、メタルクラフト演習での実物製作や照明器具のような実物を作ることが可能なものは理解されやすく、完成度も高く、その評価は高くなる。一方、模型によるデザイン表現に関しては、実物が持つであろう表面仕上げや素材感、機能の再現が難しく、評価は模型の良し悪しに影響を受けやすい。デザインとは、実際には「まだないものの提案」である。そこではいかにデザインコンセプトを伝えるかが重要であり、伝える技術が重要になる。

模型以外のデザイン表現技術として、図面、レンダリングスケッチ、プレゼンテーションボード、ポートフォリオ等がある。造形能力や模型制作能力に加え、デザインを説明する力が要求される。

メタルクラフト作品、木工作品、照明器具の実物製作に来場者は高い関心を示した一方、デザイン演習としては「お弁当箱」のように分かりやすいテーマや「あったらいいな」「ユニバーサル・デザイン」のように生活への提案や社会への問いかけをするテーマへの関心が高く、

「時計」「石鹸」のデザイン演習では造形に関して意見が寄せられた。人に訴えるテーマも重要である。

5-3 分析のまとめ

今回の作品展示は、一般の人たちと共に多くのプロデザイナーの評価や意見が得られた。一般の人たちの評価や意見は生活に密着した使う側からのものであり、プロのデザイナーのはデザイナー自身が感じているデザイナー像や使命を反映していると考えられる。

まとめてみると、以下の力を身に付けたデザイナーを社会が求めていると言えよう。

- 1、造形力（作り方、材料の理解を含む）
- 2、社会性を持つデザイン（環境配慮、経済性、よりよい生活提案など）

3、人間への暖かい視点

本学家政学部にあるプロダクトデザイン分野には他の美大や工学系のデザイン校とは違う切り口がある。本学プロダクトデザイン分野が持つ特色の一つは、「都心にありながらデザインで実物を製作する」という伝統と共に「家政学部にあることにより培われるであろう人間への暖かい視点と生活の理解」である。それらは今後とも充実しつつ、さらにプレゼンテーション力を強化するも重要となろう。

今回の学外展示で、このような本学のプロダクトデザイン分野の特色を多くの来場者に提示でき、今後の教育の方向性を確認できたことが、大きな成果であった。